

下田歌子記念女性総合研究所

# News letter

**2023** 開所10周年記念シンポジウム

実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所  
—女性が社会を変える、世界を変える—

**【プログラム】**

**第1部 特別講演** 政井貴子氏  
「私のやまと姫松ストーリー  
研究所開所10周年記念に寄せて」  
(SBI金融経済研究所取締役理事長・本学客員教授)

**10周年記念動画** 「在学生と訪ねる岩村」上映

**第2部** 卒業生によるパネルディスカッション  
～自立自営を感じる瞬間と  
一皮むけた経験から～

2023年10月8日(日)10:30～12:40  
【会場】実践女子大学 渋谷キャンパス創立120周年記念館403教室  
※写真は渋谷区常盤松の由来となっている常盤松(下田歌子記念女性総合研究所蔵)パネル

**2011**

**The 10th anniversary**

開所10周年記念シンポジウム [10月8日(日) 於:渋谷キャンパス120周年記念館 403教室]を開催しました

## Contents

- 02 **Column 01**  
下田歌子記念女性総合研究所  
開所10周年記念シンポジウム報告
- 03 **Column 02**  
研究紹介  
M・モンテッソーリの教育論における理論的分析  
生活科学部生活文化学科 教授 田中 正浩
- 04 下田歌子ヒストリア④  
下田歌子先生から「鸚鵡の額」を頂いた祖母きみ  
河崎 充代
- 06 下田歌子記念女性総合研究所 主催  
特別企画展示会の開催について  
久保 貴子
- 07 グループ研究報告 01  
翻訳プロジェクト・チームの活動  
村上 まどか・高橋 桂子・駒谷 真美・松田 純子・香川 せつ子
- 08 2023年度の活動

日時:2023年10月8日(日) 10:30~12:40/会場:渋谷キャンパス創立120周年記念館 403教室

**下**田歌子記念女性総合研究所は、10月8日(日)に開所10周年を記念したシンポジウムを開催いたしました。第1部の政井貴子氏による特別講演、第2部の卒業生によるパネルディスカッションの他、10周年を記念して作成した動画「在學生と訪ねる岩村」の上映も行いました。当日は渋谷キャンパスの常磐祭、ホームカミングデーとの同日開催となったこともあり、ご来賓の皆様をはじめ、在學生、卒業生にも多数ご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。

\* \* \*

第1部は、「私のやまと姫松ストーリー 研究所開所10周年記念に寄せて」と題し、SBI金融経済研究所取締役理事長・本学客員教授の政井貴子先生にご講演いただきました。政井先生は、ご自身のキャリアを3つ



のステージに分け、学園の創業者・下田歌子先生が詠まれた歌と重ね合わせながら、下田先生が思い描いていた日本人女性の在り方について、お考

えをお聞かせくださいました。また、当時、女子教育に力を注いだ下田先生が、いかに先見の明があったのかを再確認する良い機会をいただきました。

第2部のパネルディスカッションでは高橋桂子所長のコーディネートのもと、藤原咲氏(生活科学部生活文化学科卒業)、鵜田沙弥氏(文学部美学美術史学科卒業)、遠藤美穂氏(生活科学部生活環境学科卒業)の3名の卒業生にご登壇いただき、①キャリアを積む中で記憶に残っている出来事、②仕事を通して成長できた実感した瞬間、③母校、在學生へのエール等を中心にお話を伺いました。

それぞれ異なるキャリアステージで活躍している3名ですが、仕事に対する



姿勢には共通点も多く、実践女子大学の卒業生としての誇りをもって活躍されている姿がとても印象的でした。シンポジウムに参加していた在學生にとっては、これから社会人になるうえでの大きな指針となるような、貴重で有意義なお話となったのではないのでしょうか。

また、第1部・第2部の間には記念動画「在學生と訪ねる岩村」を上映しました。これは



在學生3名が下田先生の出身地である恵那市・岩村でその足跡を訪ねる、というコンセプトで研究所が作成しました。編集は、本学非常勤講師の越山沙千子先生にご担当いただきました。撮影は、研究所客員研究員の鈴木隆一先生、恵那市教育委員会生涯学習課の吉村新悟氏、藤川朱里氏のご協力もあり、下田先生の業績、そして現在の恵那市・岩村の魅力も伝わる動画に仕上がりました。

下田歌子先生の業績の検証を目的として設立され、今年10周年を迎えた本研究所は、これから先「女性総合研究所」としての側面をより重視した活動を行うべく、グループ研究の立ち上げ等の新しい試みをスタートさせています。様々な分野の研究者が集まることにより生み出される新しい視点、発想を大切にしながら、今後も時代に求められる「女性総合研究所」のあり方を模索し、活動を続けてまいります。

# M・モンテッソーリの 教育論における理論的分析



生活科学部生活文化学科 教授 田中 正浩

**私**の研究対象のひとつは、イタリア出身の教育思想家で、教育実践家でもあるマリア・モンテッソーリ (Maria Montessori.1870-1952) 女史です。とくに、その教育論の理論的分析です。モンテッソーリは、「子どもの発見者」として知られるルソー (Jean-J.Rousseau.1712-1778)、「民衆教育の父」と親しまれたペスタロッチ (Johann H.Pestalozzi,1746-1827)、「幼児教育の父」と呼ばれるフレーベル (Friedrich W.A.Fröbel,1782-1852) といった児童中心主義者の系譜にあり、20世紀に興った新教育運動の一翼を担った人物です。



ローマに開設された (1907) 教育施設「子どもの家 (Casa Dei Bambini)」での活動、そこで導き出された「モンテッソーリ・メソッド (教育法)」、考案された教具は、いまなお広く世界に知られています。我国でも、モンテッソーリ・メソッドを部分的に導入している幼稚園・保育園等が2,000園ほど、本格的に導入しているのは400園ほどあると言われています。最近では、将棋の藤井聡太棋士が通った幼稚園がその一つであったことをメディアが取り上げ、注目されました。



子どもの家 (Casa Dei Bambini)

ローマ大学で医学博士の学位を取得し、精神科医となったモンテッソーリは、再度同大学で教育学、実験心理学、人類学の研究に取り組みます。このような経歴と数多くの著作からは、独自の多様な視座で子どもの本質を捉えてきたことが窺えます。モンテッソーリは、子どもに対する客観的で精緻な行動観察と不断の教育実践によって「科学的教育学」を構築します。科学的教育学とは、既成概念に囚われることなく子どもを「生命の事実」として捉え、そこから教育の理論や実践を実証的に導き出すという

ものです。子どもを一つの生命の事実として客観的に捉えることを基礎に置いたモンテッソーリ教育には、その理論と実践において有効な普遍性が内包されていると考えられます。このことが広く認知されてきた理由ともいえます。一方で、その教育論には、要所に固有の用語・概念が用いられ、しかもそれらは多様な学問領域から摂取し、あるいは独自に創造しているため、その解釈は容易というわけにはいきません。その特殊性ゆえに、モンテッソーリの叙述が独断的な見解と見做され、整合性に欠けると捉えられることもあります。「改革教育学者のなかでモンテッソーリほど賞賛と非難を浴びている者は他にない〔ルドルフ・ラサーン (R.Lassahn,1928-)〕」と言われています。モンテッソーリの教育論を理解するには、理論的体系化に自覚的とは言い難い彼女の著作から、教育論の根幹をなす子ども観、成長・発達観などの特質を、つまり子どもを捉える彼女独自の視座を抽出し、分析する作業が必要になります。このような作業によってモンテッソーリ教育の理論の体系化と実践の構造化をめざし、さらに今日的妥当性を検証し、現代化へと繋げていくことが研究の目的及び内容となります。



教具 (ピンクタワー・円柱さし)

いまひとつの研究対象は、我国の近現代における欧米教育思想の受容と初等教育思想の成立過程についてです。明治期、そして、大正、昭和期には、欧米教育思想が輸入、受容されてきました。同時に、この期間は我国初等教育思想の発展形成過程でもあります。これらの教育思想形成過程について、この時代に初等教育に関わり、活躍した人物たちの教育思想とその形成過程、さらにその人物たちのリアルな交流、思想的な関係性に重きを置いて読み解き、考究しています。



# 下田歌子ヒストリア 4

これまであまり触られることがなかった下田歌子とその周辺に関する歴史秘話(エピソード)をお伝えます。そこには知られざる「人間・下田歌子」の姿があります。

## 下田歌子先生から「鸚鵡の額」を頂いた祖母きみ

2023年4月に藤原書店から出版された『近代日本を作った105人』と題する書籍の下田歌子の項を、実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所の広井多鶴子前所長が執筆なさいました。その関係で広井教授と久保貴子専任研究員のお2人が、藤原書店の藤原良夫社長をお訪ねになり、そのときに社長が私の祖母・河崎きみが下田歌子先生から頂戴した、日本刺繍による「鸚鵡の額」のことを話題になさったようです。後日社長から先生方がその額を是非ご覧になりたいとの連絡を頂きました。

この「鸚鵡の額」については、『無償の愛 後藤新平晩年の伴侶きみ』と題して祖母・河崎きみの生涯を私がまとめ、同社から約15年前に出版して頂いた中で短く触れただけでしたが、藤原社長が今もそのことを覚えておいでだったことで、実践女子大学とのご縁ができました。

縦横80×50センチと大きな「鸚鵡の額」は、今もきみが最晩年を暮らした松子叔母の家の玄関に飾られています。前述の本を作っていた頃は、父たちの代も健在で、その内容の多くを彼らからの聞き取りに頼りましたが、今では104歳の長女・和田松子叔母だけになりました。孫の代は14人ですが、皆が70代60代ともなると疎遠気味になっており、松子の長男・和田新也とも久しく連絡を取っていませんでした。突然貸出を申し入れることに躊躇いがありました。しかし、「実践女子大学の下田歌子研究の先生方がご覧になりたいから」と伝えると、快く承諾してくれ、預かりに行く丁寧な梱包までしてくれていました。

こうして8月25日、渋谷キャンパスにお邪魔して、広井教授(兼務研究員)と久保講師(専任研究員)に、「鸚鵡の額」をお目に掛けることができました。

額の梱包を開くまで、先生方は当時の実践には技芸学校があったので、その生徒による実習の作品ではな

### みちよ 河崎 充代

後藤新平と河崎きみの三男・武蔵の長女。学習院大学法学部法学科卒。2009年、祖母・河崎きみの生涯をまとめた『無償の愛 後藤新平晩年の伴侶きみ』(藤原書店)を出版。



いかなどと話しておいででしたが、御覧にいらると、半世紀以上も明るい玄関に置かれ、経年劣化による退色が進んでいるものの、本物かと思ふような羽の描写に感心なさり、専門家による作品だと仰って頂きました。

当時の日本刺繍の用途は着物や帯の装飾に留まらなかったようで、読売新聞社社主の正力松太郎氏は、新聞社買収資金を用立ててもらった恩義を忘れないようにと、後藤新平の大きな肖像画を日本刺繍で作らせ、額に仕立てて終生会社の自室に飾っておられ、きみとその子供たちも拝見したとのこと。

この「鸚鵡の額」は、きみが昭和20年代後半に住んでいた新宿区番衆町の家以来、何度か引っ越しをしても、いつもきみの家の玄関に飾られていました。私たち孫は皆、子供のころには額の中から鸚鵡が今にも飛び出して来るのではと怖がったものでした。にもかかわらず、いつも玄関に入れば必ず目に飛び込む位置に飾っていたことから、きみに取って下田先生がいかに大きな存在であったかが伺えるかと思えます。

河崎きみは、幼い頃から藤間流の踊りの稽古を続けており、将来は踊りで身を立てたいと望んでいました。そのため師匠の勧めで10代の初めに新橋の吉三耕家という置屋の半玉となったそうです。間もなく当時満

鉄総裁職から東京に戻り、逓信大臣兼鉄道院総裁へと出世街道を躍進していた後藤新平と出会いました。桃千代の名で半玉としてお披露目をするや、すぐに、「踊りは桃千代」と評され、先輩芸者2人とともに「新橋の三千代」と評判にもなりました。博文館発行の週刊グラビヤ誌『日曜画報』明治44年1月1日増刊号の付録、「全国百美人」という美人番付風の大版ポスターには、まだ14歳の桃割れ姿にもかかわらず、全国の先輩芸者とともに、その写真が最上段に掲載されるほどでしたので、新橋では将来を嘱望されてもいました。がしかし、きみはそうした人気も踊りの道も投げ打って、17歳で後藤によって落籍されたので、花柳界での生活はとても短いものでした。

後藤はきみを落籍するとまず1年間、当時の関東における茶道の中心地小田原に、茶道の内弟子修行に出しました。小田原から戻ると後藤は、きみに家を用意し、先生を呼び、個人教授の下で様々な勉強をさせました。こうして招かれた教師の1人が下田先生でした。この時期に後藤が下田先生にこのような依頼をできたことは、下田先生と後藤との間には既にかかなりの信頼関係が出来上がっていたのではないのでしょうか。大正3、4年頃、下田先生は60歳前後で、丁度『日本の女性』『礼法家事婦人修養十講』『女子の礼法』といった一般女子向け教養講座ともいべき本を著わしていた時期に当たります。きみが教えて頂いたのはそうした著作の内容のようなことだったのか、文学的な内容だったのかは知る由もありません。

きみは後藤の晩年16年間を共にし、5男2女を儲けました。ふたりの間の子は全員、後藤により命名のうち、腹心の部下の実子として届けたうえ、幼少期の養育を任せただけで、きみの生活は新平中心だったようです。きみが麻布の後藤邸に移り住んだのは、和子夫人の7回忌法要の後でした。きみは入籍を勧められても、後藤亡き後は子供たちと暮らすのだと拒み続け、昭和4年後藤が亡くなったとき、まだ33歳でした。それからきみはすべての子供を自分の養子として迎え、河崎姓で成人させ、息子達を戦争に送り出し、全員無事戻ったので、晩年は子や孫に囲まれて穏やかに過ごし、昭和46年75歳で、後藤新平にささげた一生を閉じました。毎日新聞に連載され後に文庫本化もされた、杉森久



『無償の愛』（四六判、253頁、藤原書店、2009・12・30、本体1,900円+税）



鸚鵡の額

英著の後藤の伝記『大風呂敷』には、河端きぬとして登場しています。

実践女子大学での下田歌子研究の過程では、下田先生と後藤新平との接点を示す資料は出て来ていないと伺いました。が、後藤新平没35年に編纂された『後藤新平追想録』には、〔有名婦人では下田歌子、九条武子などが頻りに訪れていた〕と、当時後藤家で学僕として過ごし、毎日新聞記者となり、後に1975年から90年の2期に亘って国家公安委員長を務めた橘善守氏が記しています。

下田先生と後藤新平の社会と人々へのまなざしには共通する理念を強く感じますので、今後の下田歌子研究に後藤新平との関係を加えて頂けると、この場をお借りして、下田先生から「鸚鵡の額」を頂戴した河崎きみの生涯をお伝えした甲斐があるというものです。

下田先生が「鸚鵡」にどんな想いを込めて、きみに下さったのかと、鸚鵡について少し調べたところ、他の鳥のよう餌になる実を求めて移動することなく、一年中同じ場所で群れを成して過ごす鸚鵡を、帝釈天が、無欲、友情、一生苦楽を共にする鳥だと称賛したことから、仏教の法話では鸚鵡はそうした美德を象徴する鳥とされているとのことでした。

仏教の法話で鸚鵡が象徴する徳目と河崎きみの一生を重ねるとき、下田先生がきみに「鸚鵡の額」をくださったのは、後藤歿後で、後藤にすべてを捧げたきみへの、ご褒美ではなかったかと思うに至りました。

下田歌子記念女性総合研究所 主催

# 特別企画展示会の開催について

久保 貴子

本研究所は創設者下田歌子の精神を受け継ぎ、女性がいきいきと活躍できる社会の実現をめざし、女性に関する学際的・総合的な研究を進めることを趣旨として2014年に設立されました。日頃の研究活動と研究成果の発信や、関連機関との連携事業も大きな使命の一つです。2023年度、本研究所は開所10周年を迎えました。そのメモリアルイヤーに諸機関・関係各位のご協力を得て、初めて以下の会場での展示を開催し、活動の場を広げました。列挙して、展示内容や特徴などをご紹介します。

## 下田歌子と結婚

会期：2023年5月15日(月)～6月2日(金) 10:30～17:00

場所：実践女子大学香雪記念資料館下田歌子記念室(渋谷キャンパス1階)

下田歌子の著作は当時の女性教育者のなかでも群を抜いて多く、女性の生活に密着し、具体的に言及したのも多くあります。その中から、「下田歌子と結婚」に焦点をあて、周辺資料とともに紹介しました。下田自身の結婚生活は短く5年間でしたが、のちに女子の結婚についての見解を著書『結婚要訣』(1916年)にまとめて世に問うています。また、1901年に神宮奉賛会が実施した神道式の模擬結婚式に、華族女学校と実践女学校の生徒を参加させ、実施後には講演も行っています。

展示では『結婚要訣』をはじめ、近代における婚礼式の範となった明宮嘉仁親王(大正天皇)の婚礼関連資料や、出席した皇族の結

婚披露宴への招待状、ボンボニエールなどを展示しました。また、共立女子大学博物館と文化学園服飾博物館が所蔵する礼服や打掛をパネル展示にて紹介したほか、駒込和装学院・青梅きもの博物館から特別にご出品いただいた今上天皇・皇后の御婚礼衣裳のレプリカをあわせて展示しました。



## 下田歌子とその時代

会期：2023年6月1日(木)～6月30日(金) 10:00～17:00

場所：ドナルド・キーン・センター柏崎(新潟県柏崎市)ロビー

世界における日本文学・文化の研究の第一人者であるドナルド・キーン氏の数多くの著作の中でも、第56回毎日出版文化賞(2002年)を受賞した記念碑的な大作に『明治天皇』があります。この作品には、下田歌子に関わる記述もあります。激動の時代に生きた下田歌子の活動を紹介することで、ドナルド・キーン氏の描く『明治天皇』の世界をより立体的に感じていただくよう努めました。

さらに「宮中奉仕時代から欧米視察まで」、「帝国婦人協会と北越支会の設立」、「皇室とのかかわり」というテーマ毎に、下田歌子が

生きた明治の宮中の様子や旧蔵装束などをパネルや写真で紹介し、下田歌子ゆかりの品もあわせて展示しました。



## 下田歌子と新潟県立柏崎常盤高等学校

会期：2023年9月11日(月) 10:00～14:30

場所：新潟県立柏崎常盤高等学校 第2棟3階3B教室

下田歌子が、欧米視察から帰国後に特に力を入れたのが1898年の帝国婦人協会の設立でした。その中心にあったのが女子教育です。同年、下田は全国に先駆け、信州・越後地方へ同協会設立の趣旨と女子教育の普及を目的として遊説を行います。当時の柏崎の有力者たちが下田の説く主張に共鳴し、翌1900年2月同協会北越支会が発会、時を置かずして比角地内護摩堂に「北越女学校」を設立します。その後、この「北越女学校」は、生徒数の増加により柏崎町妙行寺に移転し、やがて妙行寺に狩羽郡立高等女学校(1903年)が開校。新潟県立柏崎高等女学校(1907年)、新潟県立柏崎女子高等学校(1948年)、現在の新潟県立柏崎常盤高等学校(1950年～)として、

その血脈を受け継ぎ、今日のような著しい発展をとげたのです。展示では、柏崎における女子教育の黎明期にスポットをあてて開校時の写真をパネルで案内し、あわせて下田歌子ゆかりの品も展示することで、両校の繋がりについて紹介しました。



最後に特別企画展示会の実現にご協力いただいた、駒込和装学院院長・青梅きもの博物館館長・鈴木啓三氏、公益財団法人ブルボン吉田記念財団 ドナルド・キーン・センター柏崎理事・吉田眞理氏、新潟県立柏崎常盤高等学校 学校長・増川義行氏、共立女子大学博物館、文化学園服飾博物館、香雪記念資料館に深甚の謝意を表します。

# 翻訳プロジェクト・チームの活動

村上 まどか・高橋 桂子・駒谷 真美・松田 純子・香川 せつ子

今年度の当チームは、20世紀初頭に実践女学校が中国女子留学生を受け入れていたという Travis Thompson (2011) の論文を7月の研究会で紹介いたしました。さらに、黄湘金 (2007) 及び戴宇龍 (2016) の中国語文献に任利・農工大准教授による翻訳を得て、下田歌子の良妻賢母的な家政学が中国に伝播した影響について、以下のように考察を深めています。

まず中国の女性革命家・秋瑾が1904年から一年余り実践女学校に留学したという経緯を記した Thompson 論文は、興味深いものがあります。下田の良妻賢母論が、女性が家庭の中で技能を發揮し教育的な家庭を築くという啓蒙的な家庭性から、結果的に中国の民族主義や1911年辛亥革命に通じる公的・政治的手段として再活用されることになったのです。日本でも革命組織に関与した秋瑾にとって、下田の教えは抑圧でもあり刺激でもあったかと推測されますが、いずれにせよ留学が転機であったことは間違いありません。

また1902年から立て続けに中国語翻訳が出たという

下田の『新撰家政学』をめぐっては、黄論文が二人の女性翻訳者・単士厘と曾紀芬を比較しながら、訳書がいかにも中国女性の躍進につながったかを論じています。邦訳した任氏によれば「遠い江湖」は異国である日本を意味し、「高い廟堂」は清国の朝廷を指しているため、この比喩的なタイトルは下田の『新撰家政学』が日本から中国に伝わり、やがて清朝廷のお墨付き推薦図書となったという普及の過程を表していることとなります。戴論文でも、下田の良妻賢母主義に基づく『新撰家政学』が1910年代に人気を博したと指摘されています。しかしながら、1920年代に入るとデューイの進歩主義教育思想の影響が強まり、コロンビア大学の家政学理念に取って代わられたということです。

三本の論文を通して、20世紀初頭、清朝末期の中国における女子教育の近代化に関して、下田の少なからぬ貢献が確認できます。Thompson 論文では、下田と革命家・秋瑾との日本での関わり、黄論文では、下田の著書『新撰家政学』の翻訳書の普及、そして戴論文では、下田の日本型「良妻賢母」主義の家政教育理念の広まりとその後、というように多少異なる観点ではありますが、いずれにしても当時の中国において下田の功績は極めて大きいと言えそうです。やがて革命後の中国は西洋化を推し進め、封建社会の象徴として男尊女卑の儒教的なものは弾圧されますが、一方で儒教的な伝統を残した日本の女子教育の近代化が改めて興味深く思われます。



**G03**

## 翻訳プロジェクト

**海外における下田歌子研究の動向を探って**

下田は海外にも知られており、その功績が日本語以外の文献でどのように取り上げられているかを探ることが、このチームの関心の的である。まずは U.S.-Japan Women's Journal No. 44 に掲載の Linda L. Johnson (2013) を、香川 せつ子 監訳、村上まどか・志渡岡理恵 共訳「明治の『発信する知識人』としての女子教育家-下田歌子と津田梅子」と題して、この2月、当研究所『年報』第9号に収録した。

ジョンソン氏は、実学によって家政を司る良妻賢母主義の下田と、教養教育によって夫と対等になる自主独立主義の津田を好対照として論じていた。本論文は下田歌子の氏名を題に掲げた最初の英語文献と言えるであろう。

リンダ・L・ジョンソン(コロンビア大学歴史学部名誉教授、写真はLinkedInより)



秋瑾 (1875-1907、実践女学校留学生 1904-1905)

**中国女子教育への下田の影響**

清朝末期の革命家・秋瑾が、実践女学校に留学して下田の教えを受けながら、辛亥革命への情熱の炎を燃やしていた-これはTravis Thompson (2011)による、米国のウイリアム・マリア大学紀要論文の趣旨である。他、中国語原文の黄湘金 (2007)「『遠い江湖』から『高い廟堂』へ」(山西師範大学紀要)や戴宇龍 (2016)「20世紀初頭の中国における日米家政学理念の普及」(河北大学紀要)が、下田流家政学の中国への浸透を論じている。これらの文献はニュースレター No. 22 で紹介される予定である。

**翻訳チームはさらなる飛躍へ**

外国語文献の和訳のみならず、日本語文献の英訳も検討中

**◎村上まどか・高橋桂子・駒谷真美・松田純子・香川せつ子**



清国留学生に囲まれた歌子(中央)  
(「下田歌子先生伝」より)

西太后の書の前で書寿記念撮影  
(下田歌子記念女性総合研究所蔵)

### [引用文献]

- 戴宇龍 (2016) 任利訳「20世紀初期の中国における日米家政学理念の普及—下田歌子の『良妻賢母』主義家政教育理念とコロンビア大学の家政教育理念を例として」『河北大学学报』Vol.41, No.1, 33-37.
- 黄湘金 (2007) 任利訳「『遠い江湖』から『高い廟堂』へ—中国における下田歌子の『家政学』」『山西師範大学学报』Vol.34, No.5, 88-92.
- Thompson, Travis (2011) “Progressive Japanese Women’s Education: Qiu Jin and the 1911 Chinese Revolution” *James Blair Historical Review*, Vol.2, 43-57.

# 2023年度の活動

## ■ 研究会・報告

2023年 4月	高橋 美和兼務研究員 奥島 尚樹客員研究員	9月	志渡岡 理恵兼務研究員 小泉 朝子氏(川村学園女子大学・教授)
5月	田中 正浩兼務研究員 佐藤 幸子兼務研究員	10月	須賀 由紀子兼務研究員 深澤 晶久兼務研究員
6月	広井 多鶴子兼務研究員 久保 貴子専任研究員	12月	大川 知子兼務研究員 織田 涼子兼務研究員
7月	高橋 桂子所長 村上 まどか兼務研究員		

## ■ 企画展示「下田歌子と結婚」

2023年5月15(月)～6月2日(金) 渋谷キャンパス香雪記念資料館・下田歌子記念室

## ■ ロビー展示「下田歌子とその時代」

2023年6月1日(木)～6月30日(金) ドナルド・キーン・センター柏崎(新潟県柏崎市)

## ■ 企画展示「下田歌子と新潟県立柏崎常盤高等学校」

2023年9月11日(月) 新潟県立柏崎常盤高等学校

## ■ 新編下田歌子著作集『よもぎむぐら 上』刊行

校注 久保 貴子(四六判、302頁、風間書房、2023・10・1、本体2,000円+税)



「よもぎむぐら 上」

## ■ 開所10周年記念シンポジウム開催

2023年10月8日(日) 渋谷キャンパス創立120周年記念館403教室

- 特別講演:政井 貴子氏(SBI金融経済研究所取締役理事・本学客員教授)  
「私のやまと姫松ストーリー 研究所開所10周年記念に寄せて」
- 開所10周年記念動画「在学生と訪ねる岩村」放映
- 卒業生によるパネルディスカッション  
「自立自営を感じる瞬間と一皮むけた経験から」



## ■ 常磐祭・展示

第67回日野キャンパス常磐祭「Home Party」

2023年11月11日(土)、12日(日) 日野キャンパス本館449・450教室

- 学園資料展示
- グループ研究紹介・報告・展示
- 開所10周年記念動画放映など



## ■ 「第21回 下田歌子賞」表彰式(協力事業)

2024年1月27日(土) 実践女子学園中学校高等学校

- 学園資料展示など

## ■ 「家庭」担当教員向けセミナー⑥(後援事業)

2023年 7月23日(日)10:00～12:15(web開催)

9月16日(土)13:00～15:15(web開催)

10月21日(土)13:00～15:15(web開催)

12月 3日(日)13:00～15:25(web開催)

講師:高橋 桂子ほか



詳細は  
こちら



<https://www.jissen.ac.jp/shimoda/index.html>

『ニューズレター』 No. 22

発行:2024年2月1日 編集・発行所:実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 電話:042-585-8945 E-mail: shimoda-ins@jissen.ac.jp